

解答

□

問一 イ

問二 ウ

問三 あらかじめ設定されるべきではなく、ゼロ地点から導き出すものであり、その際に、自分で納得のいく思考の枠組みを得る「自由」と、多様な言説の可能性を同等に扱い、各人のバックグラウンドに関して差別を設けない「平等」が保障されるべきだということ。

問四 言葉に意味を与えていく

問五 言葉そのものは単なる記号にすぎず、はじめての言葉を聞いても人はその意味をすぐに理解することはできないということ。

問六 従来の思考の枠組みを取り払い、言葉と意味との関係をリセットした「ゼロ地点」に立ち戻って、改めて言葉を吟味して新しい「意味」を見出し、ともに納得できる事柄を見出して共有していくこと。

問七 A イ B エ C ウ D ア

問八 ア 死後 イ 相対 ウ 休息 エ 体系 オ 直結

問九 エ

□

問一 相沢さんとは私的な話をほとんどせず、休日の過ごし方の外周のようなものについて会話するだけの表面的な関係にとどまっていたから。

問二 長いこと自虐的な発言をくり返す相沢さんに対して言うことがなくなったのに加え、完全な他人から評価されるのは新鮮でうれしく、自分の作ったものを自発的に欲しがってくれる人がいることにやや舞い上がっていた部分もあったと振り返っている。

問三 ウ

問四 (一) エ

(二) 相沢さんの複雑さを重荷に感じ、知人レベルの人の行動に思いなやむのは時間の浪費に思え、もう会うつもりもないのに彼女が「私」に借りを作るという人間関係のバランスの悪さも嫌なので、うそをつくことにした。

問五 う

問六 (一) うそからでたまこと

(二) A 二枚 B 口車 C 裏 D 方便

問七 I カ II ア III ケ IV エ

問八 ウ